

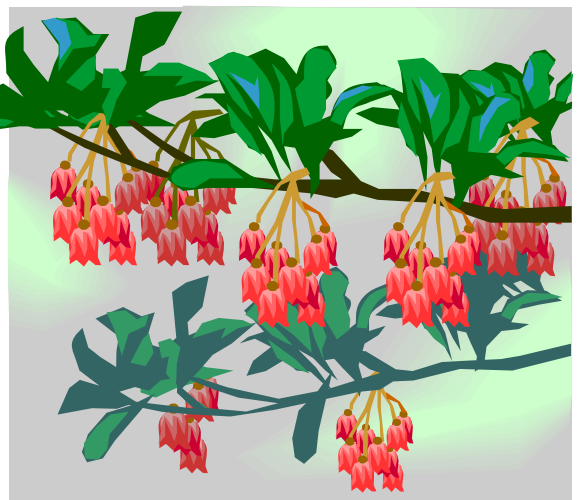
臨時総会で思ったこと

11-102 上山根 郁夫
(前理事長)

「今度の建替え案はすごいですね！部屋も広くなるし、エレベーターで便利になる。今度の理事会はたいしたものですよ」とAさん。「いや、あれはまだタタキ台ですから、これからの議論が大切ですよ」と私。すると「私は、高層階のプランに賛成ですよ。そうでないと自己負担が増えるからね」「そうですか、私はむしろ低層階のプランのほうが好きですね。もっとも、その前に建替えを決めることが大切ですよ。」これは総会が開かれる一週間前に、実際に交わされた街角での会話です。この方も5階に住んでおられる人ですから、もっと楽に生活がしたいと建替えに期待をかけておられるようです。多分こういう会話がたくさん交わされたのでしよう。

総会でまず感じたことは、実に多数の参加者だったということです。それだけで皆さんの関心の高さがわかろうというもの。説明も専門家を呼んで、てきぱきと行われ、わかりやすかったと思っています。あれだけの用意は大変だったろうと、担当理事の方々に心から感謝申し上げます。

ただ、質疑応答をまとめてやる方式は、答える側には便利でも、どうも感心できません。聞いているほうは、関心のある質問にはすぐ答えて欲しいのです。後で答えられると、せっかく高まった関心がアチコチに離れてしまいます。議事のもり上がりにも影響があると思います。私の集中力の無さと関係があるのかもしれませんが、ぜひ一問一答でやってもらいたいものです。



建替えを前提とした議論を

建替えに批判的なご意見も少数ながらありました。それも当然のことです。また一般論で賛成でも、引越しはごめんだとか余生は静かに暮したいと思っている方もいらっしゃるはず。確かに個人的な事情は大切でさまざまです。しかし、集合住宅である以上避けられないのがこの問題です。

個人的な問題を一旦おいて、築40年になろうとするこの住まいを、今後どうするかを決めるのは、私たち以外の誰でもありません。私は原則的に建替えを支持します。

エレベーター問題、部屋の狭さ、天井の低さ、水



道の騒音、そして何より耐震問題の解決には建替えしかないと考えるからです。

決して楽観できる話とは思いませんが、今後は1日も早く建替えを前提にした話し合いが求められます。皆さんの熱意で画期的な建替えが実現できる日が来ることを、今から夢みしています。



ホ号棟に住みたいのに……引っ越しています

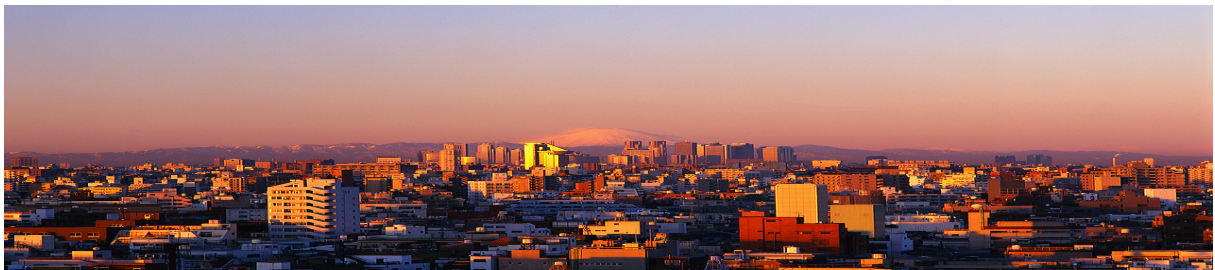
3号棟 中山 和子

昭和47年夏に借り上げ社宅のハ号棟へ、2年の予定で練馬（石神井公園からバス10分）から引越して参りました。

初めての団地生活には実際困難も多かったのですが、子育て真っ最中で、あっという間の2年が過ぎました。

環境の良さや便利さを考えると、一戸建ての家に戻る気はあまり無くなりホ号棟の4階を購入しておりました。

まさか健康上の理由で階段の昇降が困難になるとは思っていませんでした。最近大病をして、引越しを余儀なくされ、現在はエレベーターのあるマンションに住んでおります。（ホ号棟は空き室にしたままです。）駅前で大変便利ですが自然とは余り縁の無いロケーションです。



高齢化と同時に建物も老朽化していますが、バリアフリーの住まいがあたりまえの時代です。

昨年の総会で建替えの話が出た時は正直嬉しかったですね。

大規模修繕は問題を先送りしているだけでは？と先日の説明を聞いて感じました。

衛生面での貯水槽問題、耐震工事、エレベーター等を考えた時、そしてホ号棟を終の棲家にとする時、早い時期に建替えが実現できたら（生存中に？）どんなに素晴らしいかと思いました。

役員の皆様のご苦勞には心から感謝申し上げます。

多くの問題や困難があるのも事実ですが、それらを乗り越え、建替えが実現することを期待しています。